

令和7年度 第4回江北町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和7年7月3日（木） 14：00～14：30
- 2 場 所 公民館2階講座室
- 3 出席者 下表のとおり

【構成員】

番号	役 職	氏 名
1	町長	山田 恭輔
2	教育長	吉田 功
3	教育長職務代理者	浪瀬 隆一
4	教育委員	重松 亜須香
5	教育委員	溝口 泰弘

【こども教育課・学校づくり推進室】

番号	役 職	氏 名
1	課長（兼室長）	坂元 弘睦
2	課長代理	峯 清美
3	係長	野田 あゆみ
4	主査	山口 香奈
5	主任指導主事	内川 梨恵子
6	専門員	牟田 久俊

【事務局：総務政策課】

番号	役 職	氏 名
1	副町長	山下 宗人
2	課長	山中 博代
3	係長	大塚 健司

- 4 議題 教育課題解決に向けた取り組み状況について
-

○開会【山中課長】

○挨拶【山田町長】

—牟田専門員より学力向上に向けた取組状況について報告—

1. 学力向上について

(1) 英語検定受験対策

- ・受験級のレベル把握（予備調査の実施）
- ・事前アンケートの実施
- ・受験対策学習会（8月開始）

(2) イングリッシュキャンプの実施

白木パノラマ孔園

(3) 学力調査結果の分析と対策検討

- ・英語力のある生徒（全国）
中3—英検3級相当以上（52%）
高3—英検2級相当以上（51%）

2. 部活動の地域展開について

(1) 拠点校方式による合同部活動

- ・大町町との協議：合同部活動の課題（移手段）
- ・江北部会教育委員会連絡協議会（6/25実施）

(2) 部活展開について

- ・国の施策の動向を見ながら江北町としての在り方を考える
保護者負担の問題
指導者への謝金の単価

3. 教育支援センター「こあら」について

- ・現在3名通級
- ・学校外部機関との連携図りながら嚴重に運用している。
- ・江北町教育支援センター運営協議会（8/4予定）
- ・県教育支援センター指導員研修会（8/19予定，2名参加）

4. 施設老朽化対策

- ・6月補正予算で認められた小中学校改修予算入札執行に入る
- ・LED化（クラス間不公平な様に）
- ・ランドセル棚工事夏休み以降順次（工期等今後）

< 1. 学力向上について >

【山田町長】

学力向上について、受験級のレベル把握はどうするのか。

【牟田専門員】

予備調査子ども達に問題解いてもらい、どの級を受験するか決定。

受験級について～中学1年生:大半5級(一部4級)

中学2年生:5級4級中心(一部3級)

中学3年生:5級20名(23.8%)

4級25名(29.8%)

3級33名(39.3%)

全員がどの級を受験するか決めている。

- ・すでに取得している級(小学校6年生～中学校3年生)は
5級:14名, 4級:9名, 3級:3名, 準2級:1名(全体の5%取得率)
- ・昨年度は中学3年生の3級取得は1割、みなしが1割で、江北町としては2割程度が3級程度の学力があると報告聞く

【山田町長】

4級受験者の話を聞いたが、4級は簡単と思ったがギリギリでなかなか3級のハードルは高い。4級・5級は受験者が少なく、早めの取得が必要である。

<2. 部活動の地域展開について>

【山田町長】

江北町合同部活動の報告があり町内外色々と反響があった。移動手段が大事であり、予算が必要なら来年度からではなく、9月補正予算で要求し、早めに大町と協議する。部活の地域展開については、国の動きを見極めるべきかを見極める必要がある。国を待っていても遅い時がある。むしろ町の方でやるべきと思えば、国より先にしていいたいと思う。国が決めてから取りかかるでは遅いかもしれない。

【牟田専門員】

移動手段について大町町との協議という事で今後進める事になるが予算については大町町の同意がなくても単独でもするのか。大町がやると言ったらするものなのか。

【山田町長】

予算については大町町と共にやっているの、話をして「やる」と言ってもらう様に協議してほしい。江北町は、移動手段がネックなら、年度後半から一定の予算かけてでも江北町は実行に移したいということ、持って大町町との協議に入ってもらいたい。

—牟田専門員より地域クラブの公認条件について説明—

【山田町長】

部活動は学校活動の一つとして位置付けられているのか。

【牟田専門員】

学校活動内になる。

【山田町長】

部活動は学校教育活動からなくすか。学校教育活動外に同じ様なものを作るか。

【牟田専門員】

学習指導要領案の中で部活動が一時消えた時があった。ところが消してしまえば地域に丸投げとなり連携が取りにくくなるため、学習指導要領に残し、地域クラブと連携を図ることに変更した。

【山田町長】

部活動そのものは地域展開をしたとしても位置付けは、学校教育活動の中にあるが、運営で、地域の力を借りる。委託に近いという認識でいいのか。そうであれば学校で行うときの品質が保たれる所じゃないと委託できない。地域クラブは学校教育活動を委託する団体ということであれば、認定基準を決定する必要がある。指導者だけに来ってもらうのではなく部活動自体を外部に委託する。だから部活動として行うクオリティを求める。

【重松委員】

他の所を参考にしながら競技も絞って、これだったらやれるというのを江北町独自で決め、展開していったらいいのでは。

【山田町長】

学校教育活動として外部に委託している部活の地域展開ということなら、部活としてのルール・品質は必要である。

【坂元課長】

地域クラブは中学生が入ることになるが、中には小学生含まれる場合がある。種目によっては中学生だけの種目や、小学生と一緒に練習しないといけないクラブもあるので、整理をしないといけない。小・中学生でないと種目として成り立たない場合もある。

【山田町長】

成り立つか成り立たないかではなく、学校教育活動の中に部活動はこれらもある。運営する時に地域クラブの他に社会体育もあり場合によっては民間会社からも子ども達に関わりたいという所もあるかもしれない。委託をする基準を作れば、実際に子どもたちに指導している所と、地域展開をすることの受け皿は、イコールにならない。

【重松委員】

今あるのを無理やり正規クラブに移行させる必要はない。

【山田町長】

小学生と一緒にしてはダメとか他の学校としてはダメという基準を作らない。委託先の基準を決めますということにすれば良いのではないか。部活動の委託基準・認定基準を考えた方が良い。

< 3. 教育支援センター「こあら」について >

【山田町長】

何人通っているのか。

【牟田専門員】

3人。

【山田町長】

恒常的に通っている人が3名、出入り・相談人数はわからないのか。

【牟田専門員】

見学・体験等相談は最近増加中。

【山田町長】

相談・体験・問合せ等の数字を管理していく。ある意味お客さんですからどう言う形で接触しているのかが大事だと思う。分析をしてほしい。

< 4. 施設老朽化対策 >

【山田町長】

義務教育学校もするかもしれないのに、こんなにお金をかけるのですかと言う声が一番多かったが完全に誤解されていると思う。もし、義務教育学校の話が進めば、今の五か年計画の2年分を使い、後の3年分は義務教育学校に移行してもいい。ただ、できていない理由はもう言えない。すこし後ろに余裕をもって計画どおり行ってもらいたい。老朽化の話でいくとB & G 体育館や他市町の全天候グラウンドの情報収集や見学を行ってほしい。

【溝口委員】

大々的にリノベーション補修より、使えるように補修した方がいいのでは。

【山田町長】

臨時の体育館・プールは今の所廃止した方が良く思っている。その代わり屋内のスポーツも一部できる全天候型の機能を強化した方が良く考える。体育館とスクールを合わせて福祉機能を全天候に集約する。

【溝口委員】

部活動の地域展開について社会体育と地域クラブとの線引きを考えると、今活動している社会体育が地域クラブとして認定して下さいといわれた時出来るか。

【山田町長】

社会体育を除外するのではなく、社会体育イコール地域クラブではないから部活動を委託する基準を決めてやれば、受けられる団体は社会体育もあれば民間企業もある、必要な条件さえ直せば多くの団体が出る。

○閉会【山中課長】